

「中高一貫教育」に関する検証の実施について

1. 検証の目的

- (1) 高校教育改革の成果等に関する検証は、高校教育改革を着実に推進し、その実効性を確保していくために、高校教育改革の各種施策・取組の進捗状況や成果・課題について、客観的かつ専門的な見地から検証し、その結果を中長期的な計画の立案に反映させることを目的として実施する。
- (2) 併せて、検証のプロセスと結果を適時・的確に県民に情報提供し、高校教育改革に係る県民への説明責任を向上させていく。

2. 検証の実施体制

- (1) 審議会内に高校教育改革検証部会を設置する。
- (2) 審議会は、検証の基本事項（検証スケジュール、検証の視点等）について審議するほか、部会の報告を受けて検証結果（教育委員会への答申）を取りまとめる。
- (3) 部会は、必要なデータの特定、分析などの検証実務を担当する。

3. 検証の進め方（フロー図）

検証の項目や検証データ等の評価指標を検討する。
 に基づきデータを収集の上、現状を把握して、定量的・定性的に検証・評価する。
 高校教育改革の取組における成果・課題を抽出する。
 抽出した課題については、解決の方向性についても検討し、教育委員会への提言として取りまとめる。



4. 中高一貫教育校に関する検証作業のイメージ

(1) 評価指標の検討

目的や実施により期待された成果を整理するとともに、その達成状況を把握するための評価指標について検討する。

(2) 現状の把握

(1) に基づき、はじめに定量データを収集・分析する。定量データでは把握しきれない部分について現地調査等を通じて定性データを収集・分析し、現状把握を進める。

(3) 成果の把握・課題の抽出

(2) 現状把握を通して、中高一貫教育本来の趣旨に沿った取組がなされているか、中高一貫教育の特色を活かした教育活動が展開されているかなどについて確認する。

(4) 課題解決の方向性の検討

課題が抽出された場合には、その解決の方向性についても検討し、教育委員会への提言としてとりまとめる。

「中高一貫教育」に関する検証のイメージ

施策の目的
6年間のゆとりある学校生活の中で、子ども一人ひとりの個性や能力を伸ばすために中高一貫教育を導入し、県内に複数の中高一貫教育校を設置することで、学校の選択幅の拡大を図ります。
出典：県立高校将来構想(平成13年3月)

検証の項目	検証のチェックポイント
生徒の学校の選択幅は拡大しているか。	生徒の学校の選択幅は拡大しているか。
中高一貫教育校の特色を活かした教育が展開されているか	生徒一人一人の個性に応じた教育が展開されているか
	6年間の計画的・継続的な教育指導が行われているか
	主体的に学ぶ力を育成するため、様々な体験や研究に取り組んでいるか
	異年齢集団による活動が行われているか
中高一貫教育校に懸念される事項が生じていないか	受験に特化した教育が行われていないか
	生徒間の学力差が生じていないか
	学習意欲の低下が生じていないか
	地域の公立中学校への影響はあるか
	学校適応上、課題は生じていないか
期待された成果は達成されているか	生徒一人一人の個性や能力が伸び、それぞれの個性や能力に応じた進路希望を達成できているか